現代の国語「わかろうとする姿勢」鷲田　清一

ノート「わかろうとする姿勢」とは何か。

第四段落

このように見てくると、（１）理解するとは、合意とか合一といった到着点を目がけるものではなく、わからないままに身をさらし合う果てしのないプロセスなのではないかと思えてくる。一致よりも不一致、伝達よりも伝達不能、それを思い知ることこそが、理解においては重要な意味を持つ、と。（２）そういう苦い過程を踏んだ後でこそ、「あのときはわからなかったけれど、今だったらわかる。」ということも起こるのではないだろうか。そのとき、そういう過程をくぐることで、（３）わたし自身が変わったのだ。そういう出来事が起こることが大事なのであって、その場でわかるかわからないかはたいしたことではない。理解は常に（４）時間的な出来事でもあるのだ。その限りで、他者を理解するということのうちには、他者の思いに触れ、それを受け入れることで、自己のうちで何かが変わる、これまでとは違ったふうにじぶんを感じられるようになるという出来事が起こるということが含まれているのだと思う。

結局、じぶんとの関係がどうこうということを離れて、つまりじぶんがいったことが承認されるかされないかは別にして、それでもじぶんのことをわかろうと相手がじぶんに関心を持ち続けていてくれることを相手の言葉や振る舞いのうちに確認できたとき、ひとは（５）「わかってもらえた」と感じるのだろう。理解できないからといってこの場から立ち去らないこと、それでも何とかわかろうとすること、その姿勢が（６）理解においては一番大切なのだろう。

「わたしには他人の痛みというのがどうしてもわからないんです……。」その言葉を口にしたのは、実は知人の工学研究者である。彼の妻は、夫とともに米国で生活していたときに、交通事故に遭った。訴訟で神経をすり減らした後、神経に失調をきたし、激しい閉所恐怖症になり、日本に帰ってからも例えば新幹線に乗ってもー時間も列車の箱の中にいられない。それで、東京から広島の実家に帰るときも数十分おきにドアの開く各駅停車のこだまに乗らざるをえなかったという。彼女の恐怖がどういうものか、よくわからない。だけどしかたないから付き合って、今もこだまに乗って移動しているという。彼女の傍らを去らないで、ずっとー緒に移動する……。そのことが彼の場合、彼女への確かな「理解」になっていたのではないかと、わたしは思う。

【本文読解】

理解する…わからないままに身をさらし合う果てしのない ①

↓

重要なこと…意見は②　　・伝達は③

であることを思い知ること。

苦い過程の後…その場でわからなかったことがわかることも起こる。（④　　）

時間的な出来事…時間がかかる。

（１）「理解する」とはどういうことか。本文に傍線を引け。

（２）「そういう苦い過程」とは何か。

（３）「わたし自身が変わった」とあるがどう変わったのか。

（４）「時間的な出来事」とは「理解」のどういう側面を指しているか。

（５）結局、ひとはどのようなときに「わかってもらえた」と感じるのか。

（６）理解においては一「番大切」なことは何か。

【グループワーク】

★「わかろうとする姿勢」とは何か。これまでの学習を踏まえ、自分なりにまとめてみよう。

「わかろうとする姿勢とは

ということ。

↓まとめた理由を簡潔に書こう。

各自のまとめをグループ内で発表し、交流しよう。

（グループ交流メモ）